

Precious experiences in America

山田 夏美

私が留学を決意したのは申し込み用紙の締切日の2日ほど前でした。入学した当初から英語圏への留学に関心があった私は、1年の後期にアメリカ留学が可能な英語集中コースを選択しました。しかし、いざ留学を目の前にすると、自分の英語力や留学費用などさまざまな面で不安が出てきました。友達や家族、学務課の方々に話を聞いてもらおうと、ほとんどの方が「行くべきだ」と、留学について前向きに考えてくれました。留学に参加することを決意した途端、私の中の留学に対する不安は消えていき、次第に期待が大きくなっていきました。

私は留学前に、とにかく英語力を上げること、また、日本人同士で固まらずに他国の友達を作ることを目標とし、旅立ちました。

8月25日、成田空港から約13時間のフライトを経て、私たちはカンザスシティに到着しました。慣れない英語が飛び交う中、私は憧れの地に着いたことにただただ喜びを感じていました。その日の夜、それぞれの寮へ向かい1日の疲れを取ろうとしたところ、用意されているはずのベッドシーツやタオルがありませんでした。友達と協力しながらフロントの方に聞いてみるも、自分たちの英語はなかなか伝わらず、用意されるまでにとっても時間がかかりました。フロントの方は嫌な顔せず私たちに協力してくれましたが、アメリカ留学において、これが初めて言葉の壁を感じた瞬間でした。このような不安に直面しながらも、この留学生活ではたくさんの人に出会い、たくさんの体験をしました。

Class

私たちは小テストと面接結果から2クラスに分けられました。AクラスとBクラスという形に分けられ、私はBクラスでした。正直悔しかったですが、基礎から見直しクラスで1番を狙うという意気込みで授業に取り組みました。しかし、内容は環境や社会問題といった発展的なもので簡単なものではありませんでした。また、中学、高校では少ししか触れず曖昧だったところを、細かく丁寧に見直したことによって英語の基礎を固めることができました。

私たちのクラスでは、私たち日本人の他に、サウジアラビア人、中国人と一緒に授業を受けました。彼らの話す英語は発音が違ったり、アクセントが違ったりと初めて聞いたときは何を言っているのかさっぱりわかりませんでした。また、日本人の習性から私たちは日本人同士で固まることが多く、彼らに馴染むまでに時間がかかりました。しかし、授業を通して意見交換やグループスピーチをするうちに、彼らの言いたいこともだんだんわかるようになり、打ち解けていきました。彼らの尊敬すべきところは、完璧な英語を話そうとするのではなく、伝えようという気持ちが強いことです。完璧な英語を話さなければな

らないと恐れる日本人とは真逆で、とにかく分からないことは先生に質問をしていました。彼らと一緒に空間で勉強することは刺激になり、私も自ら発言するようになりました。日本にいるときには考えられないことでしたが、それは私だけでなく日本人の学生の多くが実感していると思います。彼らとは週末に外出したり、**Field Trip**でも一緒にご飯を食べました。言葉の壁を感じさせないくらい気さくに話しかけてくれて、彼らには様々な面で感謝しています。

授業は **Reading/Writing**、**Listening/Speaking**、**Grammar**、**TOEIC**、**Culture** があり、1コマ45分でした。課題は毎日出され、授業が終わると私たちは図書館に行って勉強していました。特に課題が多かったのは **Reading/Writing** のクラスでした。しかし、内容はアメリカ社会や歴史など興味のある分野だったため、英語で読み理解できたときの喜びは大きかったです。また、繰り返し読む動作のおかげで **Reading** の速さは留学前に比べ確実に早くなったと感じています。**Grammar** では英語の文法の基礎中の基礎を勉強しました。もう少し発展的な部分を勉強したいと思ったときもありましたが、誤解していた部分がとても多く、新たな発見があり **Grammar** のクラスは楽しく受けられました。

Daily life

私はよく学校の図書館に通っていました。というのも、当初は私たちの寮である **Franken Hall** の居心地があまり良くなかったからです。勉強する環境としては適していないと感じたため、授業が終わると図書館に直行することが多かったです。また、図書館に行くことで他国の友達も増えました。勉強する学生を見てモチベーションも上がり、私は図書館がとても居心地よく感じていました。しかし、**Franken Hall** での思い出もたくさんあります。ランドリーで他国の人と話したり、**Wii** のマリオカートをする機会もありました。とにかく、**Franken Hall** で生活する学生は親切な人がとても多く、大きなトラブルなく過ごすことができました。

また、アメリカではたくさんイベントが開催されていました。フットボールゲームやハロウィンパーティー、クリスマスパレードなど、どれもアメリカの文化を感じさせるものでした。特に思い出深いのはハロウィンパーティーです。みんなが仮装のための衣装を買ったり作ったりし、当日にはその衣装を着て写真を撮ったりゲームをしました。日本で仮装をする機会などないため、とても新鮮で楽しかったです。またメインストリートではたくさんの子供たちが仮装をして、さまざまなお店を巡り”**Trick or Treat**”のフレーズを言ってお菓子をもらっていました。このようなイベントがもっと日本にも浸透したら楽しいだろうな、と感じました。

このようなビッグイベントの他にも、ほとんど毎日アクティビティがありました。その中で私が特に参加してよかったと感じているのが”**1 dollar dinner**”というものです。私たちは1週間に1回何かしらのアクティビティに参加しなければならないため、友達と一緒に”**1 dollar dinner**”に参加しました。学校から少し離れた場所で開催されていて、中に入

るとそこにはたくさんの外国人が楽しそうに会話をしていました。私たちは英語を話さなければならぬ環境に恐れて1回外に出ましたが、このままでは変わらないと思い勇気を出してもう1度中に入ると、**Matt**という主催者の方が声をかけてくれました。すると、自然と英語で会話をすることができ、一気に緊張感が解けました。その喜びから、このようなアクティビティに積極的に参加していくことの大切さを改めて感じました。



Conversation Partner

私の **Conversation Partner** は **Mallory** という女の子でした。彼女はおしゃべりがとても好きで、いつも楽しそうに話してくれました。彼女が入っている軍隊のこと、彼女のお母さんのこと、ほかにもお互いの国のイベントや料理、学校について話しました。しかし、悩むことも度々ありました。**Mallory** の話す英語はとても早く、聞き取ることに必死で会話の内容が頭になかなか入ってきませんでした。笑ってごまかすことも多く、私が言葉を発する時間は圧倒的に短かったです。その点において、私は今でも反省しています。相手が話題を作るのを待つのではなく、自分からもっと話題を作っていくべきだと、**Conversation** を通して学びました。**Mallory** との一番の思い出は **Ester Egg** を一緒に作ったことです。本来、**Ester** は春に祝うアメリカのイベントですが、私たちに体験してみたいと、材料も全て揃えてくれました。音楽をかけながらそれぞれの卵にペイントして、出来上がった **Ester Egg** はみんなの個性がでていてすごくいいものになりました。貴重な体験をさせてもらい本当に感謝しています。



FIS family

FIS family には感謝してもしきれないくらいたくさん体験をさせていただきました。

私の FIS family は ESL の先生でもある Mrs. Hardee でした。先生ということもあり安心しましたが、日本人 1 人でやっていけるかという不安もありました。初めて一緒に出かけた先は”Renaissance Festival”という仮装イベントでした。Mrs. Hardee の旦那さんと娘さん、お孫さんと私を含め、総勢 9 人で行きました。会場に来ていた人ほとんどの人がプリンセスや妖精といった仮装に身を包まれ、見ていだけでその場の雰囲気を楽しむことができました。しかし、正直のところ 8 人の外国人に対して日本人 1 人という環境は苦しく、話しかけられても Yes か No でしか返せず、会話がほとんどできませんでした。今でもその時のもどかしさが記憶に残っています。そんな私の様子を Mrs. Hardee は感じ取り、次からは日本人の友達を連れてきてもいいよと言ってくれました。とても安心しましたが、それと共に自分の不甲斐なさを感じました。しかし、そのような体験を通して英語に対する意欲がさらに高まりました。

Mrs. Hardee はその後も 2 週間に 1 回のペースで、いろいろなところに連れて行ってくれました。彼女が通っている教会を訪れたり、娘さんの家に行きスモアを作ったり、アメリカでしかできない体験をたくさんしました。特に思い出深いのが、彼女の孫の Adriana と一緒に遊んだことです。初めて会ったときは全然私に打ち解けてくれず、どう接したらいいのか分かりませんでした。けれども、本や遊具で遊んでいくうちにだんだん打ち解けてくれ、私の名前を覚えてくれたときはとてもうれしかったです。

Thanksgiving week には 5 日間 Mrs. Hardee の家に宿泊しました。Thanksgiving Day 当日には彼女のお義母さんの家に行き、ターキーやマッシュポテト、パンプキンパイなどの定番の料理をお腹いっぱいになるまで食べました。Adriana と遊んだり、初対面の人とも話したり、トランプゲームをしたり新鮮な 1 日を過ごせました。他にも、Mrs. Hardee

とクリスマスツリーの飾り付けをしたり、一緒に朝ごはんを作ったり、彼女の旦那さんの Mr. Hardee が好きなジブリを英語吹き替え版で見たりしました。5日間という短い間でとても充実した日々を送ることができました。



この4ヶ月間、最も感謝したい相手は ESL の先生方です。Mrs. K 、Mrs. Hardee、Dr. Foot、彼らは私たちを全面的にサポートしてくれました。また、彼らは私たちを生徒としてだけでなく友達のように接してくれたため、私たちも彼らに気軽に近づくことができました。素晴らしい教員に出会えて本当に光栄です。

今回の留学生活は私の人生においてかけがえのないものになるでしょう。申し込み用紙締切日、ちょっとでも気が変わって留学を決断していなかったら、私はこのような体験をすることができませんでした。留学に賛成してくれた両親、私に関わってくださった方々に心から感謝の気持ちを伝えたいです。